

ぼくと「せんぞさま

小学二年 春田 ゆう

おぼんが近づいてきたので、かぞくみんなでおはかまいりに行くことになりました。

おはかへ行くまえに、「せんぞさまをおいのりしてもらったため、おとらに立ちよりました。おてらではさいしよに、ほとけさまにらいはいをして、つきにおきようをとなえてもらいました。そしてさいごに、おぼうさまのお話を聞きました。

ぼくのかよう学校には、ぶっ教を教えてくれるしゅう教の時間や行いがあります。

おてらで聞いたお話は学校と同じでした。「せんぞさまは、ぼくが生まれる前になくなったかぞくの人たちのことで、そのなくなったかぞくの人たちがいたから、今のぼくがいることがわかりました。

お母さんから、ぼくが生まれた時に、ひいおばあちゃんが生きていて、ぼくをとてもかわいがってくれたことを聞きました。ざんねんなことに、そのひいおばあちゃんはぼくが六か月の時になくなったのでおぼえていません。

でも、なくなったひいおばあちゃんが、「せんぞさまになって、ず

つとぼくやかぞくを見まもってこれているみたいです。そのおかげで、まい日元気に明るくすごせているんだなあと考えたらうれしくなりました。

おてらでのおいのりの後、すぐ近くにあるごせんぞさまたちのおはかへ、お花とお水とせんこうをもっておまいりに行きました。

おはかがとてもあつくなっていたので、少しでもすずしいと思っ
てほしくて、たくさんたくさんお水をかけました。

「よろこんでくれたかな。」

ずっといっしょ、ぼくと「せんぞさま」。

「ありがとう、また来るね。」

そう、おはかにおいのりをして、心と体をぽかぽかにしてかえりま
した。